

# 令和7年度（2025年度）第1回函館市地域支え合い推進協議体 会議概要

## 1 日時

令和7年（2025年）6月19日（木） 14：00～15：00

## 2 場所

函館市役所8階 第1会議室

## 3 議事

(1) 開会

(2) 新たに就任した委員の紹介

(3) 報告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター  
業務に係る活動報告

(4) その他

(5) 閉会

## 4 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 座席表
- ・ 委員名簿
- ・ 生活支援体制整備事業実施要綱
- ・ 生活支援体制整備事業実施要綱 新旧対照表
- ・ 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動
- ・ 函館市生活支援コーディネーター活動便り

## 5 出席委員（8名）

池田委員，河合委員，小杉委員，三田委員，常野委員，中村委員，  
能川委員，山下委員

## 6 傍聴

0名

## 7 報道機関

1名（北海道新聞社）

## 8 事務局（函館市保健福祉部地域包括ケア推進課）

原保健福祉部次長，辻屋主査，石黒主任，高村主任技師

## 9 会議要旨

- (1) 開 会
- (2) 新たに就任した委員の紹介
- (3) 報 告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

池田会長

それでは、「函館市生活体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」について、第1層生活支援コーディネーター（以下、「第1層」という。）の小杉委員から説明をお願いしたい。

小杉委員

（資料「第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動」に基づき取り組みを説明）

- ・「住民主体の助け合い活動の普及啓発」では、町会や老人クラブへの出前講座を行ったほか、機関紙を作成し、公共機関や地域包括支援センター、町会、学校等に配布した。今後はシンボルマーク（ラウ君、ポーちゃん）の更なる活用やSNSの活用を検討したい。
- ・「くらしのサポーターの養成」では、これまで行ってきた学生への養成に加え、高齢者や一般市民の養成も行い、高齢者の健康、生きがいづくりにもつなげていきたい。

池田会長

前任の委員から引き継ぎ、とても頑張っていると思う。

ただ今の説明について、常野委員いかがか。

常野委員

とても興味関心を惹かれる、素晴らしいお話だった。

地域包括支援センターでは、第2層生活支援コーディネーター（以下、「第2層」という。）を担っており、先日も第2層で集まった際に、市内の10圏域の課題を拾い上げ、全市に共通する課題を第1層と協議し、

課題解決に向けて活動したいという話が出ていた。本日の説明でもその旨をお話ししていただいたので、自分も共に考えていきたい。

小杉委員が話されていたように、地域から拾い上げた全市的な課題について、本協議体で皆様から色々なご意見をいただきながら、第1層と第2層で協力して活動できればいいと思う。

山下委員

私は、社会福祉協議会の地域福祉係で様々な事業を進めているため、皆様の取り組みを目にすることがあったが、本日初めて拝見する内容もあり、社会福祉協議会としても、何か協力できることはないかと考えている。

池田会長

社会福祉協議会では同じような取り組みを行っているのだろうか。

山下委員

はい。我々は資金面の助成について数多く行っており、地域の方々の活動に対する助成の際に、情報が得られるほか、学校との関わりや、ボランティアに登録している団体とのやりとりで、そういった取り組みについての情報を得ている。

池田会長

地域福祉に詳しい社会福祉協議会と連携していくことはいいと思う。

小杉委員

よろしく願いしたい。

三田委員

質問なのだが、説明の中であった「機関紙の作成」というのは、手元に配られている資料のことか。

小杉委員

はい。

### 三田委員

---

各町会には、在宅福祉委員会というものがあり、そこでは様々な活動を行っている。今、話があったが、社会福祉協議会から支援を行ってもらっているところと重複しているような部分があり、どう棲み分けをしたらいいのだろうかという疑問がある。

例えば、社会福祉協議会では「在宅福祉ふれあい事業」の展開を行っており、在宅福祉委員会から計画書の作成や実績報告を行うと、数万円を限度に助成してもらえるものだったかと思う。

小杉委員の説明の中にあった、くらしのサポーターの養成はとてもいい取り組みなので、それらが地域の活動の中でマッチしていくことが望ましい。現状は組織が別になっており、ばらばらという感じを受けているため、もう少しマッチした展開ができないものかという思いがある。

くらしのサポーターの養成は今までの学生から、今年は高齢者や一般市民に対し養成を行うとの話であったが、在宅福祉委員会のメンバーの大半は民生児童委員（以下、「民生委員」という。）で、これまでそういった人への具体的な養成講座がなかったことから、一つのいい機会だと思う。是非案内をいただきたい。

ちなみに、くらしのサポーターになった場合は、当然無報酬なのだろうか。

### 小杉委員

---

そのとおり、今は無報酬で行っている。

### 三田委員

---

講座を受けるにあたって、受講料はかからないのか。

### 小杉委員

---

かからない。

### 三田委員

---

地域の町会には似たような活動があるので、ぜひそういったところとマッチングした活動にしていければいいと思う。感覚的に組織が別々に

なっているような気がしているので，うまくタイアップしてほしい。

#### 池田会長

---

今の話を受けて，中村委員からは何かあるか。

#### 中村委員

---

去年の秋に町会連合会主催で，各地域包括支援センター（以下，「包括」という。）の方を招いて，各町会が参加するフォーラムを開催した。いつもお世話になっている包括の活躍ぶりを拝見し，非常に安心感を持つことができた。

今回の第1層の発表についても，素晴らしいことを行っており，これだけのことを皆一生懸命やっているということに感心した。少しずつでも高齢者に向けた活動をしていると思った。

#### 池田会長

---

三田委員と中村委員の話を総括すると，第2層や包括，市と連携しながら，どうやったら町内会や民生委員に切り込んでいけるか。そういったところも，これから模索していく必要があると思う。

#### 小杉委員

---

おそらく，三田委員が話されていたのは，町会の在宅福祉委員の見守り活動の件だと思うが，なかなか次の担い手が見つからないなどの課題があることは把握している。そこに対して，代わりにならないとは思いますが，くらしのサポーターと一緒に，頑張っ活動している民生委員や町会の方のお手伝いに少しでもなればということ，将来的に考えていきたい。

#### 三田委員

---

町会でも，第1層や第2層といった認識を持っている人は少ないかと思う。あまり認識はされていない気がしている。

#### 小杉委員

---

来月あたりに町会連合会へ挨拶に伺い，全町会に広報紙の配布をお願い

いしにまわろうと思っているので、よろしくお願ひしたい。

#### 中村委員

---

お待ちしている。

#### 池田会長

---

フォーラムを開催しているので、町会連合会にお願いして、養成講座についての説明をするチャンスだと思う。中村委員もいるので、養成講座で、こういうことをやっていますということをアピールすれば、広がりができてくるのではないか。

#### 能川委員

---

大変勉強になる話であった。ボランティア連絡協議会として、今、非常に悩んでいるのは、「仲間としてのつながり」という感覚が、希薄になっているように見えることで、簡単に言うと、自分達の会だけが良ければいいという感じであるため、何としても、勉強会を何回か開催したいと思っている。

第1層のこのような活動や取り組みを、ボランティアの団体が理解しているかという点、そこは疑問である。時折、市の出前講座を受けているが、コーディネーターのような専門の方からの講習、勉強会はこれまで行ったことがない。その点、町会連合会では取り組まれていると思うが、我々はボランティアの勉強を積み重ねていきたいと、今日の報告を聞いて特に感じた。

中でも気になったのは、小中学生のボランティアについてである。我々にとってボランティアというと、圧倒的に高齢者が多く、40代のボランティアの方から「私達の世代では、『ボランティア＝高齢者』だと受け止めている」と言われた。第1層の話聞いて、ボランティアとしての立ち位置について考えることも必要かと思った。

#### 河合委員

---

くらしのサポーターの養成やちょこっと見守りの取り組みを、学生以外にも拡充しようと、担い手を広げてもらえることにより、私の担当す

る利用者も対象になっていくのかと思います、今後期待したい内容だった。

全市的な課題や地域の課題などあると思うが、利用者に携わっているケアマネジャー（以下、「ケアマネ」という。）としては、個人の課題というものもたくさんあり、本来のケアマネ業務以外の部分で、利用者から色々なことをお願いされ、現状誰も任せられる人がいないために、ケアマネが担わざるを得ないという状況になっている。国は、ケアマネのシャドーワークをなくそうと動いているが、自治体と協力して、こういった生活支援コーディネーターと一緒に、個人の課題を解決していけるような力があると、とても地域のためにもなると感じた。

#### 池田会長

---

河合委員からの話について、ぜひ小杉委員と話をしていただきたい。どうやったらいいかということを検討していただければ、また広がりができる。河合委員の相談に乗ってもらえれば、町会や民生委員のほかに、第1層とケアマネのつながりもできると思う。

せっかく皆様が委員を引き受けてくれているので、どんどん利用してもらいたい。委員の皆様から意見を聞くと、すごく前向きな回答が多かったので、お互いに連絡を取り合えば、協力してもらえらると思う。

特に、今回の発表で良かった点は、今までとこれからについて語ってくれたことだ。これからどうしていくか、ということを確認に語ってくれ、目標を持って取り組まれていると思う。目標に向かってどう具体的に動いていくのかを、今回の議論を踏まえ、進めていければと思う。今までは2人体制だったが、今年度3人体制になり、ますます活動できると思うので、ぜひ頑張ってもらいたい。

全体を通して何か意見等はあるか。

#### 原保健福祉部次長

---

まずは、御報告について感謝申し上げます。見守りについてだが、社会福祉協議会や包括でも様々な活動をしており、民間事業者とも協定を結んで取り組みを行っているが、高齢者の見守りは課題の一つである。市としては、サービスにうまくつなげることができればいいと思っている。

また、高齢者だけではなく、様々な世代の方にも関わっているということで、市でも福祉拠点を設置して様々な相談を受けているが、相談をどこにつなぐのかということも難しい部分ではある。市の様々な部局に声をかけて動いているが、それでも解決が難しい場合もある。

ケアマネのシャドークの話など、解決が難しい部分もあるが、今後も情報を共有しながら、協力しながら取り組みを進めていければと考えている。

(4) その他

池田会長

---

その他として、何か意見等はあるか。

石黒主任

---

最後に市からお知らせがある。令和7年4月1日付けで、函館市生活支援体制整備事業実施要綱を一部改正しており、改正内容は、軽微な文言修正である。新要綱と新旧対照表を配布しているので、後ほど御覧いただきたい。

(5) 閉 会